

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 城東区
学校名 今福小学校
学校長名 牛尾 慶一郎

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動をご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・今福小学校では、第6学年26名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

【国語】国語の平均正答率は59.0pで、大阪市を8.0p、全国を8.2p下回った結果となった。無回答率は全国よりは0.2p下回っているが、大阪市と比べると1.1p多い。

【算数】算数の平均正答率は57.0pで、大阪市を5.0p、全国を5.5p下回った結果となった。無回答率は全国より0.4p、大阪市より0.7p多かった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

領域別では「話すこと・聞くこと」の内容に一番課題が見られた。図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように文章を書くことにも課題がある。また、文章の中で適切な漢字を使うこともまだ弱い。国語科に限らず、自分の考えを他者に分かりやすく伝えることができるよう書き表し方を工夫するなどの活動を確保していくことが必要である。

〔算数〕

領域別では、「データの活用」の内容に一番課題が見られた。複数のグラフを比べ、考察したことを他者に分かりやすく伝えることができるようになる必要がある。以前、課題であった「図形」については正答率が上がっている。具体的な操作活動を重視してきた成果の表れと考えられる。「数と計算」については、分配の法則や一の位が0の2つの二位数の乗法など基礎的な計算を確実にできるようにしていく必要がある。

質問紙調査より

「朝食を毎日食べていますか」では、「食べている」と答える児童も多いが、昨年度と同様に「全く食べていない」と答える児童の割合が全国や大阪市と比べても多い。「学校へ行くのは楽しい」や「自分には良いところがある」では、肯定的に答える児童の割合は全国や大阪市と比べて多い。児童の良いところや頑張ったことをほめて伸ばし、達成感や自己有用感を持たせる取り組みを続けてきた成果と考える。「読書は好き」と肯定的に答える児童の割合は高いが、一日に読書に費やす時間はそれほど多くなく、「全くしない」という児童の割合も多い。

今後の取組(アクションプラン)

今年度もすべての学習の基盤となる言語能力の育成を重点に置いていく。授業の中で、児童一人一人に自分の考えを持たせ、ペアやグループの中で分かりやすく伝える活動の時間はしっかりととるようにしてきた。今後はさらに目的や意図に応じて自分の考えを図やグラフを引用するなど、「書く」活動を取り入れ、相手にわかりやすく伝えていく時間をどの教科でも意識していきたい。また、基礎的基本的な学習も引き続き力を入れていく。朝の学習タイムを活用し、漢字学習や基礎的な読解の問題、デジタルドリルなど自分に合った目標を持って取り組んだり、漢字検定にチャレンジするなど意欲を持って取り組むことができるようになる。読書活動については読み聞かせや読書週間の活動などで読書が好きな児童が多いが、家庭での読書につながるように保護者にも啓発していきたい。